

# 天王寺動物園 経営戦略

計画期間(第2期)令和8年度～12年度

## 基本方針

### 1 新たな事業展開(生物多様性保全の取組)

### 2 計画内容

- 2.1 現状・課題分析と目標等
- 2.2 入園料収入の確保
- 2.3 入園料外収入の拡充
- 2.4 支出の最適化

### 3 概算事業費

- 3.1 収支シミュレーション
- 3.2 入園料外収入の内訳
- 3.3 来園者数シミュレーション

(参考)

- 自己収入比率シミュレーション



本戦略では、第2期中期計画期間(令和8年度～12年度)において、域内外保全活動、種の保存や環境教育などの生物多様性保全の取組を、より一層充実することにより、大都市大阪にふさわしい「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指していくことを基本方針とする。

この基本方針を実現するために基盤となるのは、持続可能な園運営である。「経営戦略」では、持続可能な園運営を実現するための具体的な方策として、入園料等の収入の安定した確保と経費の節減を掲げている。

第1期中期計画期間においては、コロナ禍が終息した令和5年度以降、来園者数も回復し、コロナ前の水準に戻りつつある。しかし、天王寺動物園がさらに発展していくためには、園内施設の充実、動物の導入・繁殖、園内サービスの充実などにより動物園としての魅力をより一層向上し、来園者数をさらに増加させるほか、ファンクラブ会員や寄附収入の増等、入園料外収入の確保にもつなげていく必要がある。

そのため、この「経営戦略」では、ターゲットとなる来園者の細分化(セグメンテーション)と絞込み(ターゲティング)、細分化された来園者の層に応じた対策(ポジショニング)というマーケティング・プロセスの手法を活用した戦略を立てる。

また、経費の節減策としては、既にESCO事業によるエネルギーコストの削減策に取り組んでいるところであるが、さらなる運営コストの見直しやDXの導入による業務プロセスの改革にも取り組む。

一連の取組には外部人材を積極的に活用するなどして、収入増等の実現により収支構造を改善し、自己収入比率を高める。

以上の取組により、持続可能な園運営を実現したうえで、大都市大阪にふさわしい「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指して一層飛躍していきたいと考える。

# 1 新たな事業展開(生物多様性保全の取組)

第2期では、新たな事業展開として以下に取り組む

- 世界的な自然環境の変化を踏まえ、調査研究、国際的な域内外保全活動、種の保存の取組を進める。
- 動物園の環境教育の場としてのニーズの高まりに対応し、環境教育の機能強化を図る。

## 生物多様性保全事業

### 当園における種の保存活動の強み

- 一定規模の飼育スペースと展示スペース
- 多種多様な生物の飼育経験のあるスタッフ

### 保全(生息域内保全及び生息域外保全)活動につながる事業

- 調査研究
- 教育啓発
- 人材育成

### 今後、希少種の生息域外保全につなげるべく注力すべき点

- JAZA、大学機関や研究機関等との連携強化
- 希少動物の配偶子(精子や卵子)の冷凍保存技術の向上
- 人工授精技術の活用と向上

これらの成果を世界に向け発信 (中期計画前文より)

- 「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指すため、当園のプレゼンスを高める。
- 持続可能な園運営のため、安定した収入確保につなげる。

## 2 計画内容

### 2.1 現状・課題分析と目標等

#### 収入構造

日常的な園運営費の半分以上を公費負担で賄っている。  
(自己収入(入園料等)で賄えない不足分を市より補填)

- 入園料収入
  - 自己収入の大半を占める入園料収入増のため、サービス向上等による来園者数増が急務
  - 入園料改定(社会教育施設としての役割を考慮)
- 入園料外収入
  - 主に寄附やファンクラブ収入で成り立っている
  - 特に寄附収入は年度ごとの変動が大きく、予測困難な部分が多いため、現体制では対応に限界がある
  - 有料イベントの企画・実施

#### 支出構造

固定費や来園者サービス向上費等必要経費の割合が大きく、経費節減の効果は限定的にならざるを得ないが、継続的に取り組む。

現状・課題分析を踏まえ、自己収入増や経費節減を実現し、園運営費に占める自己収入比率を高める。(公費負担の低減)

**R7(予算ベース) 38.9%**

**⇒ 50.0%以上(5か年平均)**

#### ◆自己収入比率

日常的な園運営費(自己収入+大阪市補填分【※】)に占める自己収入(入園料+入園料外収入)の割合

【※】日常的な園運営費(人件費、動物飼料費、光熱水費、清掃・出改札・警備業務委託費等)のうち、自己収入で賄えない不足分(10ページ「収支シミュレーション」参照)

### 自己収入比率を高めるために注視していくべき指標

<入園料増> 入園料改定、入園者数の増減、有料入園者比率、インバウンド比率、団体/個人比率、広報

<入園料外収入増> ファンクラブ会員継続率、ファンクラブ会員新規加入率、有料イベント、イベント参加率、来園者アンケートの各項目回答、広報

<経費節減> 光熱水費、消耗品費、修繕費、作業効率改善率、超過勤務

令和8年度にマーケティングや営業戦略に精通した外部人材を活用し、入園料収入や入園料外収入の増に取り組んでいく。

## 2 計画内容

### 2.2 入園料収入の確保

持続可能な園運営には安定した収入確保が不可欠(第2期中期目標より)

- 生物多様性保全の取組や来園者サービス向上に今後も継続して取り組んでいけるよう、料金改定を行う。  
改定にあたっては、社会教育施設としての位置づけを考慮し、大人500円→800円とする。(市外小中学生等は据え置き)
- 入園料収入増加のため、国内外からの年間来園者数200万人を達成する。
- 安定した入園料収入の確保により、法人の持続可能な経営を実現し、さらなる取組につなげる。

#### 来園者の分類と対応策

ターゲット層	対応策				
A ファミリー	①動物導入 繁殖	②魅力発信	③暑さ寒さ 対策 等利便性	④イベント充実	⑤近隣施設コラボ誘客
B 国内旅行					
C 学校行事/遠足					
D リピーター				⑥特典充実	⑦限定イベント
E インバウンド	⑧園の存在PR			⑨対応サービス	

## 2 計画内容

### 2.2 入園料収入の確保

#### 来園者別対応策の概要

##### ①動物導入・繁殖

- ・コレクション計画に即して実施。飼育動物の環境エンリッチメントも毎年目標を立てて計画的に質を向上させる。

##### ②魅力発信

- ・全ての情報はHPでターゲット問わず発信することが基本であるが、内容によってSNSをターゲットごとに使いわけの検討。Bは旅行会社とのコラボ、Cは自治体や学校等へのアプローチを検討。

##### ③暑さ寒さ対策等 利便性向上

- ・「動物園」＝「動物を観たいけど、暑い、寒い」という負のイメージを払拭し、「天王寺動物園」＝「動物を観ながら、涼める場所多い、休憩もできる」という好印象への転換が必要。特に暑さ対策が喫緊の課題である。
- ・インパクトはなくても、改善箇所を積極的に発信し、付加価値を向上させることで、選択時の優位性が高くなる。  
A・B・C共通。

##### ④イベント充実

- ・ナイトZOOに加え、近隣施設・企業と連携した新たなイベントを展開。  
既存のディスカバープログラムとは区別し、特別感のある体験型イベントを提供。
- ・他園での事例が少ない独自メニューを開発し、評価向上を目指す。

##### ⑤近隣施設とのコラボ による誘客

- ・天王寺・阿倍野エリアの立地を活かし、周辺施設との連携イベントや割引で相互送客を図る。
- ・動物園を知らない・興味がなかった層へのアプローチを強化。

##### ⑥特典充実

##### ⑦限定イベント

- ・リピーター(ファンクラブ会員・年パス保持者)向けに動物の導入や繁殖に合わせた特典・イベントを強化。
- ・新たな年パス特典もファンクラブ誘導策として検討。

##### ⑧インバウンドへのPR

##### ⑨インバウンド対応サービス

- ・天王寺・新世界エリアの観光客に動物園の存在を認知させる施策が必要。
- ・多言語対応の掲示物や翻訳ツールを整備し、好印象を与える。
- ・海外チケット販売会社との契約で販路拡大を図る。

## 2 計画内容

### 2.2 入園料収入の確保

#### 【参考】コレクション計画2025のS、A、A'種とSNS(X・Instagram)での投稿数

カテゴリ	種
S	アムールトラ、ホッキョクグマ、アジアゾウ、コフラミンゴ、オグロヅル、ナベヅル
A	チンパンジー、レッサースローリス、ブチハイエナ、マレーグマ、シセンレッサーパンダ、ヒガシクロサイ、テンジクネズミ、カヤネズミ、ケープハイラックス、フンボルトペンギン、パラワンコクジャク、チリーフラミンゴ、ベニロフラミンゴ、キンクロハジロ、コサギ、ニホンイシガメ、ヨウスコウワニ
A'	ニホンアナグマ、カリフォルニアアシカ、アミメキリン、バーバリーシープ、ヒツジ、コサンケイ

専門的見地から策定したコレクション計画を踏まえつつも、一般的によく知られている種や、いわゆる人気動物と言われる種等の要素も考慮し、導入時や繁殖時には多様な切り口で情報発信を行う。その効果検証も多面的な切り口で実施することにより、教育普及と来園者数増につなげる。

#### SNS (X・Instagram) での過去5年リアクション数 (#) ランキング

1. チンパンジー	11. ニホンアナグマ	21. ベニロフラミンゴ
2. レッサーパンダ	12. キンクロハジロ	22. チリーフラミンゴ
3. ホッキョクグマ	13. コサギ	23. ニホンイシガメ
4. アムールトラ	14. コサンケイ	24. インドホシガメ
5. ゾウ	15. バーバリーシープ	25. ホウシャガメ
6. カリフォルニアアシカ	16. カヤネズミ	26. ヨウスコウワニ
7. アミメキリン	17. ブチハイエナ	27. コビトマングース
8. マレーグマ	18. ヒツジ(コリデール)	28. テンジクネズミ
9. レッサースローリス	19. フンボルトペンギン	29. オシドリ
10. ケープハイラックス	20. ニホンコウノトリ	30. ヒガシクロサイ
		31. パラワンコクジャク



## 2 計画内容

### 2.3 入園料外収入の拡充

持続可能な園運営には安定した収入確保が不可欠(第2期中期目標より)

- 外部人材の活用等で、入園料外収入増に取り組んでいく。
- 「渉外営業戦略」を毎年度策定し、営業活動に取り組む。

#### ①寄附金収入の確保

- 広報・協力体制の強化
- 園内外でのPRを強化し、協力企業の拡大を図る。
- 来園者が気軽に寄附できる仕組の導入を検討。

#### ②ファンクラブ会員の獲得

- 現在の限定グッズやバックヤードツアーに加え、新たなグッズ(ファンクラブプチ含む)やイベント(ファン感謝デーなど)を企画。
- 会員特典の定期的な見直しにより、魅力を向上。
- 新規会員の獲得を目指す。

#### ③有料イベントの実施

- 学校等の教育機関への無料のディスカバープログラムは継続。
- 特別感のある限定メニューを有料で新設し、楽しみながら学べる機会を提供。収益確保も目的とする。  
例:飼育・獣医体験、ホッキョクグマイイベント、ワークショップや外部講師による講演会

#### ④オリジナルグッズの開発

- 商品開発の継続  
※これまでのオリジナル商品の開発・監修を継続。  
※魅力ある商品を通じて物販売上を向上。  
※歩合収入の確保に努める。

## 2 計画内容

### 2.4 支出の最適化

持続可能な園運営には安定した収入確保が不可欠(第2期中期目標より)

- コスト全体の削減手法を検討し、効率化を図る
- 経費節減額 47万円/年(各年ともR6実績比較)

#### 運営コストの見直し

- 電気・水道使用量の削減
- 動物用飼料の適切な発注・給餌管理によるコスト抑制
- 機器更新など維持管理によるコストダウン(省エネ製品の採用等)

#### 業務効率化による支出削減

- 紙の使用量削減(両面印刷、ペーパーレス化)

#### 運営方法の再検討

- 園内マップの紙ベース廃止もしくは削減

# 3 概算事業費

## 3.1 収支シミュレーション

(単位：百万円)

目的		R8	R9	R10	R11	R12	R8~R12平均
収入	入園料収入	835	902	896	866	864	872
	入園料外収入	144	148	151	154	162	152
	収入計 (a)	979	1,050	1,047	1,019	1,027	1,024
支出	人件費	725	759	797	823	853	792
	その他物件費	1,031	1,077	1,610	1,093	1,155	1,193
	支出計 (b) ※日常的な園運営費	1,757	1,836	2,407	1,916	2,008	1,985
①収支不足 (b-a) ※大阪市補填分		778	787	1,360	897	982	961
②施設維持管理経費		571	647	574	577	558	586
③退職手当		60	60	120	60	60	72
④消費税及び固定資産税		341	11	19	12	12	79
⑤運営費交付金計 (①+②+③+④) ※公園使用料等除く)		1,751	1,505	2,072	1,546	1,612	1,697
⑥公園使用料等		21	23	25	25	28	24
⑦運営費交付金合計 (⑤+⑥)		1,772	1,528	2,098	1,571	1,640	1,722
⑧施設整備等補助金		31	1,331	1,368	38	283	610
⑨市負担額総計 (⑦+⑧)		1,803	2,859	3,466	1,609	1,923	2,332

### 3 概算事業費

#### 3.2 入園料外収入の内訳

(単位：百万円)

	R8	R9	R10	R11	R12
入園料外収入	73	76	77	81	87
寄附金関係	20	21	22	23	24
個人寄付	7	7	8	9	10
法人寄付	3	4	4	5	5
その他寄付金	10	10	10	10	10
その他の収入	53	56	55	58	63
ファンクラブ	21	21	21	20	20
その他	32	35	34	38	43
ゲートエリア魅力向上事業	71	72	74	73	75
公園使用料	48	49	51	51	53
公募売店	31	31	31	31	31
ゲートエリア	17	18	20	20	22
売店歩合	23	23	23	22	22
<b>合計</b>	<b>144</b>	<b>148</b>	<b>151</b>	<b>154</b>	<b>162</b>

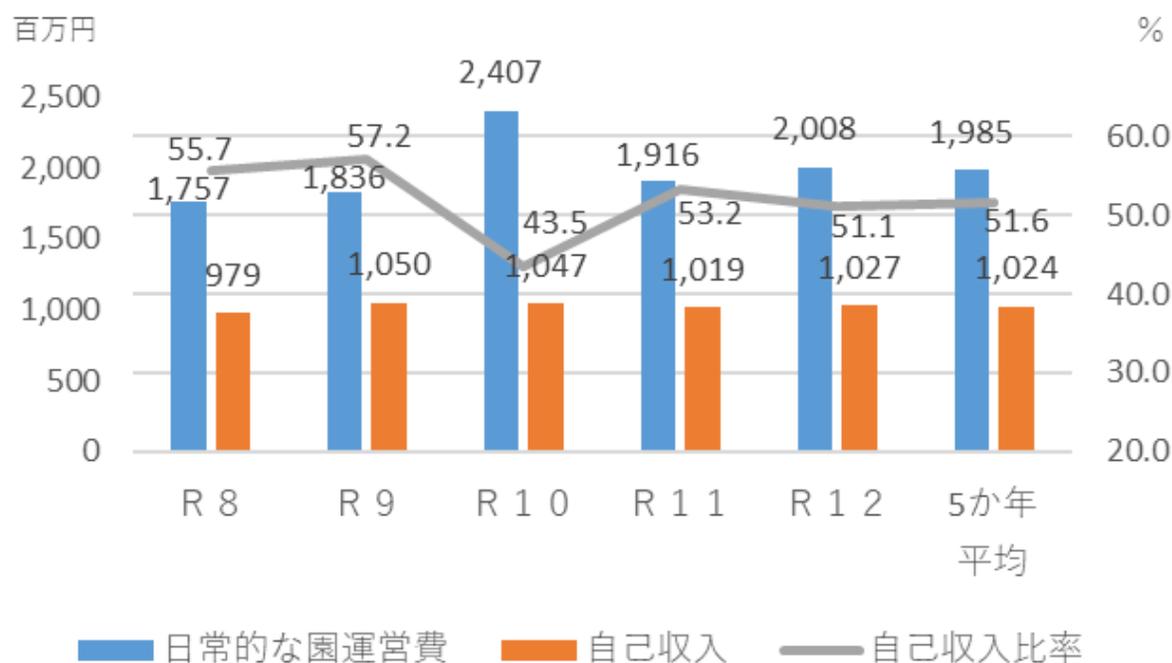
#### 3.3 来園者数シミュレーション

(単位：百万円、万人)

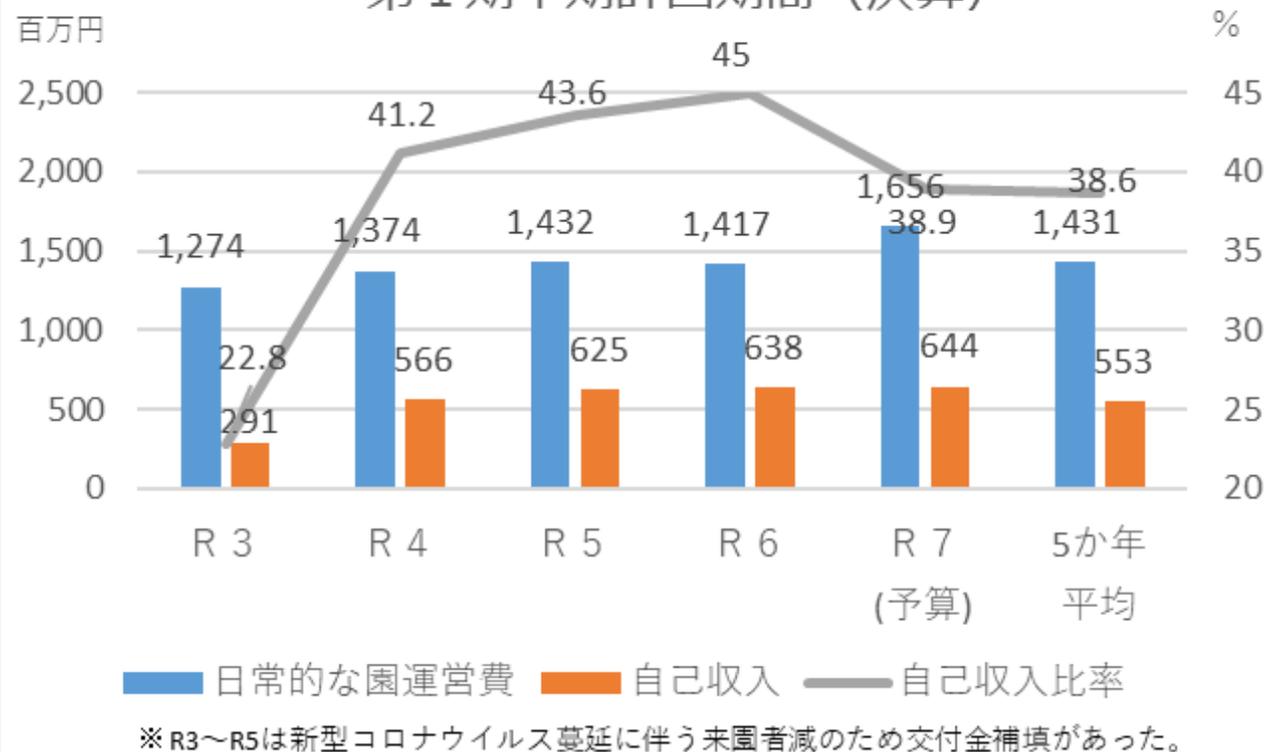
	R8	R9	R10	R11	R12
入園者数(万人)	201	196	195	189	188
入園料収入(百万円)	835	902	896	866	864

# (参考) 自己収入比率シミュレーション

## 第2期中期計画期間中の予算シミュレーション



## 第1期中期計画期間 (決算)



# 天王寺動物園 組織力向上計画

計画期間(第2期)令和8年度～12年度

## 基本方針

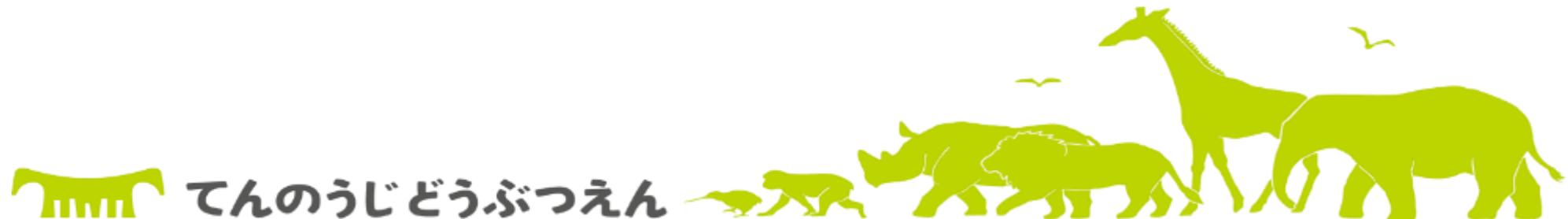
### 1 組織力向上方針 –具体的な方向性–

### 2 計画内容

- 2.1 組織体制の見直しとクロスファンクショナルなチームの活用
- 2.2 柔軟でオープンなコミュニケーション文化のある組織風土の醸成
- 2.3 人材の育成と活用

### 3 概算事業費

- 3.1 人材育成
- 3.2 外部人材の活用
- 3.3 DX推進事業費



# 基本方針

本計画では、組織体制の構築や良き組織風土の醸成、人材確保・育成等、第1期中期計画期間において実施してきた組織ガバナンスの取組をさらに発展させて、持続可能な法人経営を確固としたものとするを目標として、第2期中期計画期間(令和8年度～12年度)で取り組む具体的な計画を定める。その目指すべき方向性として最も重要なものは、地方独立行政法人としての強みである柔軟かつ迅速な意思決定や実行力、組織内の緊密なコミュニケーションをより一層充実することである。

組織体制の構築や人材の確保については、第1期においては、動物福祉に配慮した園運営を行うため動物飼育専門員を段階的に増員したところである。第2期では、外部人材の活用等様々な手法を取り入れるほか、必要に応じて柔軟に組織体制を見直していく。また、人材育成については、技術継承方法の構築、研修機会の充実、意欲喚起のためのインセンティブ制度のさらなる発展などに取り組んでいく。

さらに、職員間で緊密なコミュニケーションを図ることにより、中期計画に掲げる「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という組織目標を職員全員が共有し、ワンチームとなって取り組む体制を構築することが重要である。こうした緊密なコミュニケーションを図ることにより、個人のエネルギーの単純合計を超越した組織全体のエネルギーを発揮することができる。また、こうした緊密なコミュニケーションを図るためには、日ごろからオープンにコミュニケーションできる組織風土を醸成していくことも重要である。

こうした取組により、持続可能な法人経営を確固としたものにするを、第2期中期計画期間の組織力向上の基本方針とする。

## 【機動力・連携・技術継承による組織力の向上】

• 地方独立行政法人としての強みを活かし、柔軟かつ迅速な対応力を発揮しながら、専門性の高い人材によるチーム連携と技術継承を通じて、動物の飼育・保全・診療・研究・教育の各分野で総合的な価値を創出する。

### ◆地方独立行政法人という組織形態の強みを生かした機動力の発揮◆

- デジタル化やDXを進め、各ジョブ・各タスクを効率化するとともに、意思決定をさらにスピード化し、機動力のある組織を目指す。
- 分野によっては計画初年度から外部人材を積極的に活用して、従来の枠にとらわれない知見・発想を生かした企画立案を行い、取り組んでいく。
- 人事評価制度に法人独自の視点を取り入れていくなど、人材育成に資するよう諸制度の改定を行う。

### ●PTをはじめとする「クロスファンクショナルチーム」の活用と横断的コミュニケーション機会の増大●

- 職位に関わらず発言に対する心理的安全性を高め、自由闊達な議論のできる組織風土を醸成する。
- 事業単位で、PTをはじめとする小回りの利くクロスファンクショナルなチームでの取組機会を増やし、横断的なコミュニケーションから得た「気づき」や「ノウハウ」を生かし、各課・各班・各人レベルのスキルアップ並びに客観的な課題発見力の向上を目指すとともに、風通しの良い職場づくりを進める。
- 物理的・心理的安全性の担保はもとより、各人のライフスタイルの差異が健全な組織風土醸成の妨げにならないよう、ワークライフバランスにも配慮し、クラウド技術の活用も進め、公平に多様な働き方を実現できるような枠組を作る。

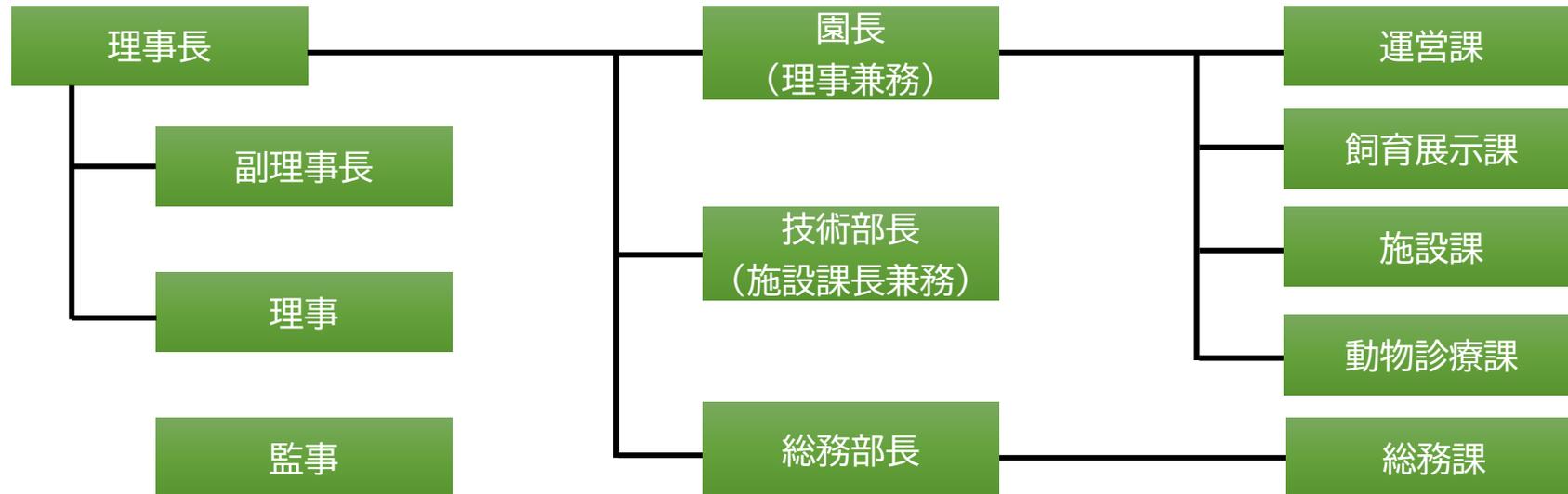
### ■動物飼育・保全・診療・研究・環境教育のプロ集団としての人材育成及び技術継承■

- 動物園を取り巻く世界的な潮流や求められる社会的役割の変化を理解し、それに則した動物園の在り方について議論し、実践できる人材を育成する。
- 世界レベルの研究、飼育・保全活動の実践に向け、専門性をさらに高めるために研究・診療・発表等の機会を増やす。
- 各人が現状保持しているノウハウ(暗黙知)のうち可能な部分については見える化し、技術・知識の継承を行う。

### 2.1 組織体制の見直しとクロスファンクショナルなチームの活用

#### (1) 現組織体制

第2期中期計画では現在の組織体制を継承し、各課の役割を着実に果たし機能することを前提とする。そのうえで、風通しの良い職場づくりのため、横断的なコミュニケーションの手法として、事業単位でクロスファンクショナルなチームでの事業遂行も行うこととする。



# 2 計画内容

## 2.1 組織体制の見直しとクロスファンクショナルなチームの活用

### (2) 各課分担(現状とあるべき姿)

\*CFT:クロスファンクショナルチーム及び会議体

	総務課	運営課	飼育展示課	動物診療課	施設課	CFT*
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人の事務の総合調整</li> <li>理事会/その他の会議・役員等</li> <li>定款並びに規則規程の制定/改廃</li> <li>文書/人事/給与/福利厚生</li> <li>法人の予算/決算/物品/財産管理/契約</li> <li>資金管理等/内部統制/監査</li> <li>情報化</li> <li>危機管理</li> <li>大阪市/その他関係機関との調整</li> <li>職員の安全衛生管理及び災害補償</li> <li>職員の厚生</li> <li>計画(中期計画/年度計画)/評価</li> <li>法人の経営分析、</li> <li>法人内企画調整に関する会議の運営</li> <li>他の課の所管に属さない事務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物園の運営</li> <li>サービス向上</li> <li>協働事業</li> <li>広聴/広報/報道</li> <li>行催事企画/運営</li> <li>市民協働</li> <li>民間事業者等との連携</li> <li>動物にかかる情報発信</li> <li>寄附・資金調達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の飼育/展示</li> <li>ハズバンドリートレーニング</li> <li>環境エンリッチメント</li> <li>希少動物の繁殖/種の保存</li> <li>動物導入/移動調整</li> <li>血統管理</li> <li>渉外交渉/海外交流</li> <li>動物にかかる資料の収集/保存/活用</li> <li>教育普及事業の企画/調整/実施</li> <li>学校等教育機関との連携</li> <li>動物にかかる調査研究</li> <li>動物用飼料の調達/買入</li> <li>広報誌等の発行</li> <li>動物にかかる情報発信</li> <li>協働事業</li> <li>民間事業者等との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の診療/治療/解剖</li> <li>ハズバンドリートレーニング</li> <li>動物にかかる調査研究</li> <li>希少動物の繁殖/種の保存</li> <li>教育普及事業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設管理の総括/連絡調整</li> <li>施設整備に関する事務の総括/連絡調整</li> <li>施設に関する中長期整備計画</li> <li>施設整備に係る工事の実施</li> <li>施設に関する工事/保全業務の連絡調整/指導/助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナイトズーPT</li> <li>周年事業PT</li> <li>新獣舎関連PT</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>理事会</li> <li>理事長報告</li> <li>実務者会議</li> <li>安全衛生委員会</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>リスク管理委員会</li> <li>BCP対策会議</li> </ul>
あるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人の事務の総合調整</li> <li>理事会/その他の会議・役員等</li> <li>定款並びに規則規程の制定/改廃</li> <li>文書/人事/給与/福利厚生</li> <li>法人の予算/決算/物品/財産管理/契約</li> <li>資金管理等/内部統制/監査</li> <li>情報化</li> <li>危機管理</li> <li>大阪市/その他関係機関との調整</li> <li>職員の安全衛生管理及び災害補償</li> <li>職員の厚生</li> <li>計画(中期計画/年度計画)/評価</li> <li>法人の経営分析、</li> <li>法人内企画調整に関する会議の運営</li> <li>他の課の所管に属さない事務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物園の運営</li> <li>サービス向上</li> <li>協働事業</li> <li>広聴/広報/報道</li> <li>行催事企画/運営</li> <li>市民協働</li> <li>民間事業者等との連携</li> <li>動物にかかる情報発信</li> <li>広報誌等の発行</li> <li>寄附・資金調達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の飼育/展示</li> <li>ハズバンドリートレーニング</li> <li>環境エンリッチメント</li> <li>希少動物の繁殖/種の保存</li> <li>動物導入/移動調整</li> <li>血統管理</li> <li>渉外交渉/海外交流</li> <li>動物にかかる資料の収集/保存/活用</li> <li>教育普及事業の企画/調整/実施</li> <li>動物に学校等教育機関との連携</li> <li>動物にかかる調査研究</li> <li>動物用飼料の調達/買入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の診療/治療/解剖</li> <li>ハズバンドリートレーニング</li> <li>動物にかかる調査研究</li> <li>希少動物の繁殖/種の保存</li> <li>教育普及事業の実施</li> <li>医療機器・薬品の買入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設管理の総括/連絡調整</li> <li>施設整備に関する事務の総括/連絡調整</li> <li>施設に関する中長期整備計画</li> <li>施設整備に係る工事の実施</li> <li>施設に関する工事/保全業務の連絡調整/指導/助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナイトズーPT</li> <li>周年事業PT</li> <li>新獣舎関連PT</li> <li>DX導入PT</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>理事会</li> <li>理事長報告</li> <li>実務者会議</li> <li>安全衛生委員会</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>係長会議</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>リスク管理委員会</li> <li>BCP対策会議</li> </ul>

### 2.1 組織体制の見直しとクロスファンクショナルチームの活用

#### (3) 外部人材の活用等

- ・収入の確保については、令和8年度にマーケティングや営業戦略に精通した外部人材を活用し、企業等からの寄附やファンクラブ収入等収益源の多様化と安定化を実現する。
- ・DX推進については、令和8年度にIT導入、データ活用や業務改善に精通した外部人材を活用し、職員の働きやすさの向上・業務のスマート化・経費節減を実現する。
- ・生物多様性保全の取組について、繁殖や保護に関する専門知識を持つ人材(研究職)の採用を検討・実施のうえ、科学的な知見に基づいた繁殖・保全活動を推進する。
- ・複数課を跨ぐ兼任についても必要に応じて行う。

### 2.2 柔軟でオープンなコミュニケーション文化のある組織風土の醸成

- ・多様な人材がオープンに議論できるよう、以下の横断的なコミュニケーション機会を創出する。そうした機会を通して心理的安全性の高い組織を構築し、職員の80%以上（毎年度実施のキャリアデザインシートの「業務に関してやりがいがあるか」との設問項目において「ある」「ややある」と回答した職員の割合）がやりがいを持って働くことができる組織体制を構築する。

(1) 既存の会議の充実・係長会等新たなレベルでの定例会議を開催する。

(2) PTの追加、PTの内容と構造の見直し（進捗管理・所属課への持ち帰り・効果評価）

- ・既存PTに加え、必要に応じて事業単位でのPTを立ち上げ、運営する。
- ・PT参加者の選定、所属課への情報共有、効果の分析および評価の仕組みを整え、より効率的・効果的な運営を行う。

(3) 情報共有の徹底

- ・日常的に管理職⇄係員双方向での情報共有を行う。
- ・課内での課長・係長レベルでの定例会議を開催する。
- ・課長級以上に各班、担当の業務内容および業務分担状況ならびに課題を報告相談できる仕組を構築する。

※心理的安全性：話しやすさ（話す・聞く）、助け合い（助けを求める・助ける）、挑戦（挑戦する・歓迎する・機会を与える、つかむ）、多様性歓迎（個性を発揮する、歓迎する・適切な配慮をする）が担保されていること

### 2.2 柔軟でオープンなコミュニケーション文化のある組織風土の醸成

#### (4) 各課現場実習の実施

- ・各課の業務を理解するために、業務に応じて1日から1週間を目途に各課の業務を経験する。  
(飼育展示課ならば1日の業務サイクルをみてもらうなど、各課でどのような仕事をしているかを理解し、コミュニケーションの活発化を図り相互に新しい気づきを得る。)

飼育展示課各班(計6班)、動物診療課、運営課、施設課、総務課でのOJT

仕組づくりから始め、トライアル期間を設け、一定数の職員が他課の業務への理解度を深めるようにする。

#### ○ベースとなる考え方

様々な専門分野(職種)からなる組織において、個々の職員が自己の専門分野(職種)で高いスキルを有していても、他分野をはじめ組織全体への理解度や共感性が低ければ、偏狭なセクショナリズムに陥りやすく排他的となり、結果的に組織として機能不全を招くことになる。

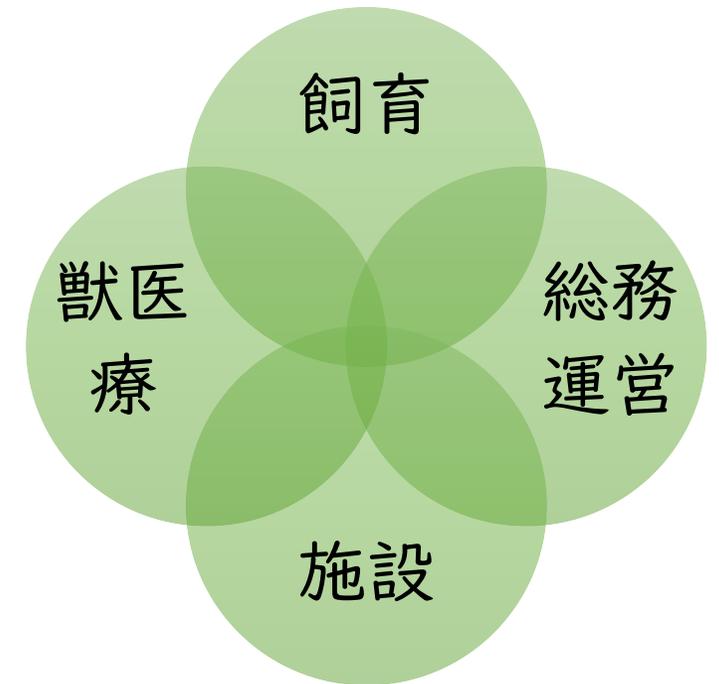


全体像の理解はマネジメント層のみならずすべての階層で必要

※実習を通して、自身のキャリア志向についての理解と組織全体についての理解を促す。

※プロフェッショナル志向が明確となり、さらに専門性を高めるために継続的に研鑽を積む必要がある場合は、学会・研修等各種活動への参加や人事配置等に可能な限り配慮するなど、組織的・計画的に対応する。

どの分野の活動も、他分野の活動に影響を受ける。



### 2.2 柔軟でオープンなコミュニケーション文化のある組織風土の醸成

#### (5) 管理職向け研修・ワークショップの実施

- ・管理職を対象とし、経営、HRマネジメント、危機管理、チームビルディング、PMに関する研修及びワークショップを実施する。研修、ワークショップの効果測定も実施し、ブラッシュアップさせる。
- ・年度計画とは別に組織力に特化した指標で年度ごとに課長級以上の職員で組織を評価する仕組みを構築し、本計画の進捗を確認する。

#### (6) 働きやすい職場環境

- ・DX推進により業務効率化とクラウド化を進め、テレワークしやすい環境を整備する。
- ・また、組織体制についても必要に応じ適正化を図り、人事評価については大阪市制度を踏襲しながらも、評価基準については法人独自の視点を取り入れていく。
- ・多様性を意識した人材の登用、配置を行いシナジー効果を発揮する。
- ・各職員の役割をジョブ・タスクそれぞれのレベルで見える化し、業務の属人化を防ぐ。
- ・職員が組織に対しての心理的所有感を高め、仕事や職場に愛着を持つことで主体的な行動ができるようにする。

## 2.3 人材の育成と活用

- ・動物園をめぐる社会的な要請の変化をキャッチアップし、天王寺動物園が理想とする人材像を育成することで持続可能かつ発展的な園運営を行う。育成のために必要なOJT及び各種研修を実施する。
- ・また、各人が現状保持しているノウハウ（暗黙知）のうち可能な部分については見える化し、適宜技術・知識の継承を進めるとともに、その集積を図り、組織全体として業務効率化につなげる。
- ・職員の80%以上が、毎年度実施のキャリアデザインシートの「困難な問題にも積極的にチャレンジし、自己成長につなげたいか」との設問項目において「思う」「やや思う」と回答できるよう、心理的安全性の高い職場環境を整え、個々の能力向上と意欲喚起を実現する。

### (1) 理想とする人材像

#### ○天王寺動物園の職員としての理想像に含まれる素養

- ・成長意欲が高い。
- ・自分の役割を理解している。
- ・臨機応変な判断ができる。
- ・既成の概念やルールにとらわれず、新しい発想ができる。
- ・誰もが状況に応じたリーダーシップを発揮する。
- ・困難な問題にも積極的にチャレンジし、自己成長につなげる。
- ・コミュニケーション能力が高い。
- ・自己管理能力が高い。
- ・変化を受け入れ、対応できる。

理解する・伝える力

×

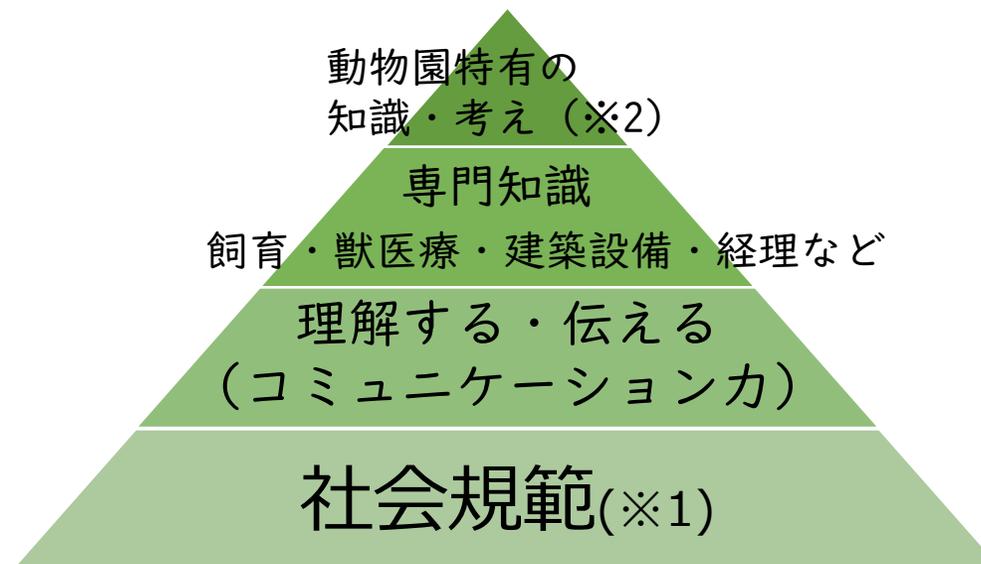
専門知識

×

動物園特有の知識・考え方

動物園のあるべき姿を自ら  
考えることのできる動物園人

#### ○理想の動物園人成長の段階的モデル



※1 コンプライアンス遵守含め、社会人としての規範を持っていること。  
また一通りの社会人基礎力（報連相・時間コスト意識・社会常識も含める）

※2 動物園の在り方（保全など）、経営など（いわゆる「動物園学」の領域も重複）

## 2.3 人材の育成と活用

### (2) 人材の育成

① 理想像に含まれる素養および理想の動物園人成長の段階的モデルより人材育成に必要な各種研修を実施。

対象職員	職種	内容	効果
新規採用者	全職種	オリエンテーション	法人職員としてのベース
新規採用者+未受講者	動物飼育	飼育管理マニュアル解説・動愛法	動物飼育専門員としての基礎
全職員	全職種	防災研修	防災意識の共有
新規採用者+希望者	全職種	動物福祉倫理規程	動物福祉に配慮した飼育の実践
新規採用者+希望者	全職種	行動分析学	飼育管理に直結する能力開発
新規採用者+希望者	全職種	法人組織・規程・文書	法人の成立ちや年度計画との相関性、起案など基礎事務能力
係長級以下	全職種	コンプライアンス	法人職員(社会人)としての基本
係長級以下	全職種	情報セキュリティ	法人職員(社会人)としての基本
係長級以下	全職種	契約事務	不適正事務につながらない基礎
課長級以下	全職種	サービス	法人職員(社会人)としての基本
主務(リーダー)	全職種	リーダーとして求められる役割	班をまとめ円滑に業務遂行するためのマネジメントを求められることへの再確認、再認識
全員	全職種	ホスピタリティ(講習)	社会の中における天王寺動物園の評価の上昇、来園者の満足度向上

### 2.3 人材の育成と活用

#### (2) 人材の育成

① 理想像に含まれる素養および理想の動物園人成長の段階的モデルより人材育成に必要な各種研修を実施。

対象職員	職種	内容	効果
課長代理級以上	全職種	コンプライアンス	管理職からの徹底
飼育+希望者	全職種	動物栄養学	動物福祉にもつながる知識の習得
全員	飼育	行動分析学	飼育管理に直結する能力開発
全員	飼育	ケーススタディ勉強会	安全な飼育管理技術の習得
ツル類担当者	飼育	人工授精法	種の保存への取組み
希望者	全職種	ファンドレイジング	自主財源への取組み推進
新規採用者	飼育	感染症対策、関係法令	高病原性鳥インフルエンザをはじめとする感染症対策の基礎
新規採用者	飼育	動物保定法など	安全な飼育管理技術の習得

### 2.3 人材の育成と活用

#### (2) 人材の育成

##### ② 第1期で構築した制度の検証・活用

###### ○人事評価制度

大阪市制度を踏襲しながらも、評価基準については法人独自のものとする。

R6に導入したインセンティブ制度の効果を都度検証し、ブラッシュアップを図る。

###### ○提案型研修制度

制度のさらなる質的向上を目指して検証・改善を行う。

###### ○資格取得制度

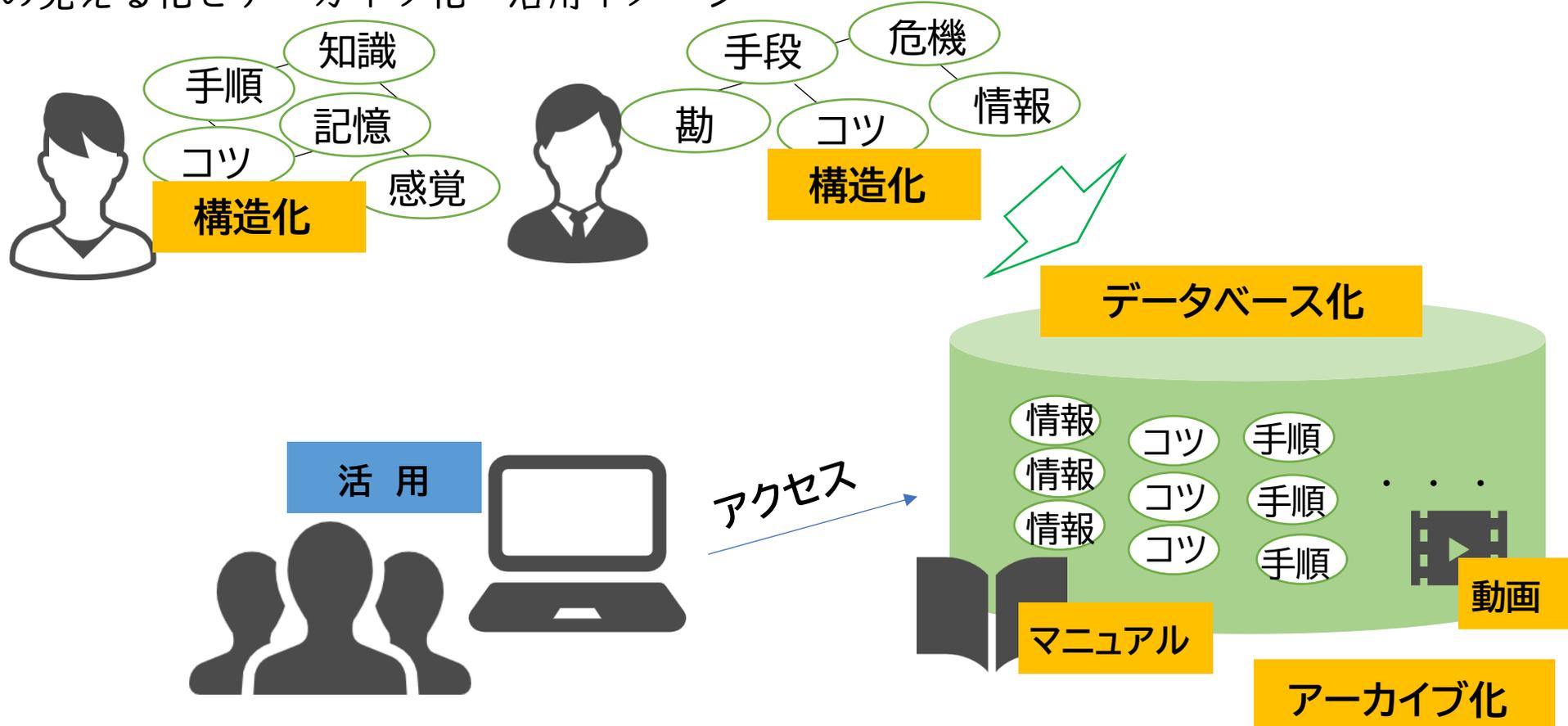
法人業務に寄与する各種資格の取得支援を目的に設置した資格取得制度について、理想像に含まれる素養および理想の動物園人成長の段階的モデルに即して推奨資格の改廃など制度的なブラッシュアップを図る。（現在の対象資格：準認定ファンドレイザー・飼育技師・簿記等。今後、理想とする人材像やキャリア志向等を踏まえ追加を検討）

## 2.3 人材の育成と活用

### (3) 人材の活用

- ① 各職員が現状保持しているノウハウ（暗黙知）のうち可能な部分については見える化し、適宜技術・知識の継承を行う。また、可能な部分はマニュアル化、アーカイブ化を図る。

○ノウハウの見える化とアーカイブ化・活用イメージ

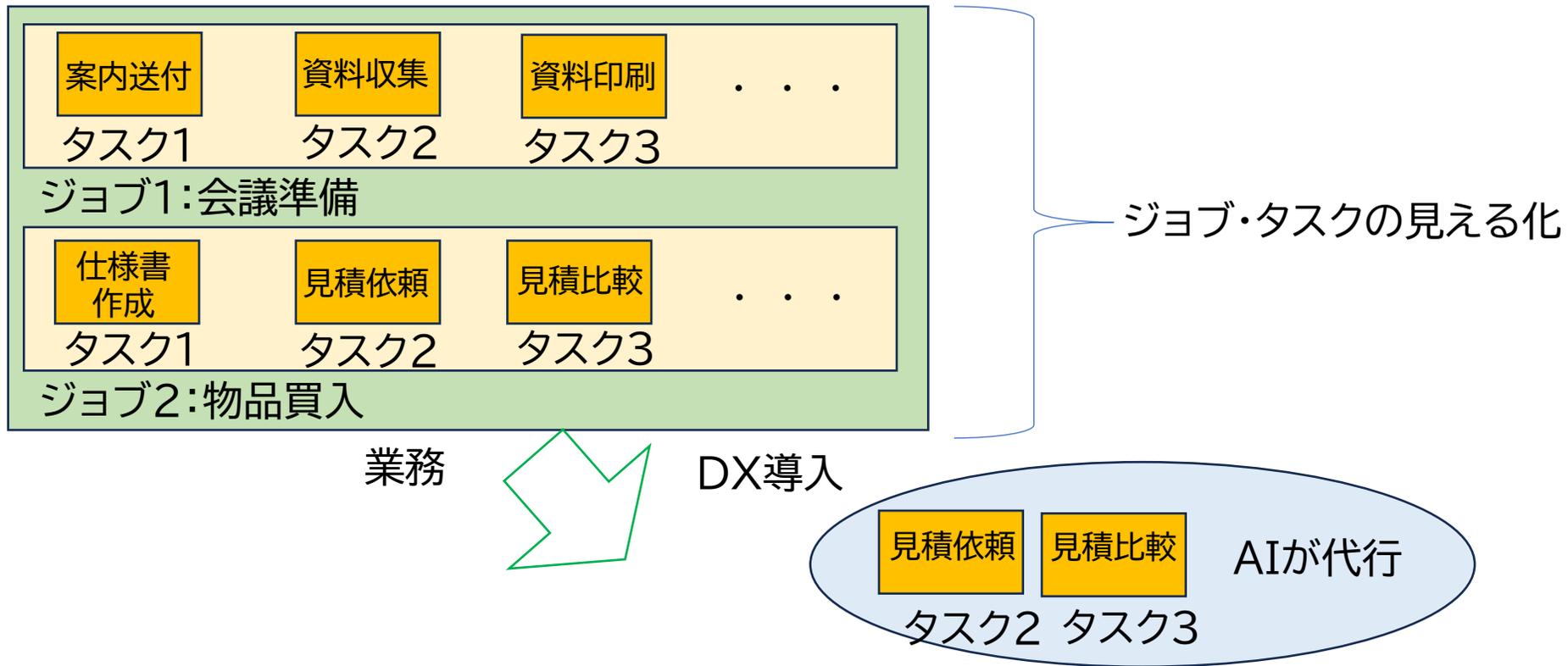


## 2.3 人材の育成と活用

### (3) 人材の活用

- ② 各職員の役割をジョブ・タスクそれぞれのレベルで見える化し、可能な部分はDX化及びAIの活用により効率化・代替化を図る。⇒職員一人ひとりの負担軽減と生産性を向上させ、新たな業務領域に取り組むための基盤を整えることを可能にする。

○ジョブ・タスクの見える化、DX化・AIの活用による効率化・代替化のイメージ



## 3 概算事業費

### 3.1 人材育成

(単位：千円)

	R8	R9	R10	R11	R12	合計
研修関係	800	800	800	800	800	4,000
資格取得・外部 研修・セミナー 等	385	385	385	385	385	1,925
インセンティブ 等	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	5,000
計	2,185	2,185	2,185	2,185	2,185	10,925

### 3.2 外部人材の活用

(単位：千円)

	R8	R9	R10	R11	R12	合計
アドバイザー 等	21,050	21,050	21,050	21,050	21,050	105,250
計	21,050	21,050	21,050	21,050	21,050	105,250

## 3 概算事業費

### 3.3 DX推進事業費

(単位：千円)

	R8	R9	R10	R11	R12	合計
委託料	5,000	12,000	14,000	16,000	18,000	65,000
サポート・コンサルティング	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	25,000
システム導入		5,000	5,000	5,000	5,000	20,000
保守等		2,000	4,000	6,000	8,000	20,000
設備費	12,000	0	0	0	0	12,000
ディスプレイ等	2,000					2,000
サーバー設置	10,000					10,000
消耗品費等	2,000	2,000	4,000	4,000	4,000	16,000
端末の向上等	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	10,000
タブレット端末等			2,000	2,000	2,000	6,000
通信費等	1,000	1,000	2,000	2,000	2,000	8,000
タブレット端末用			1,000	1,000	1,000	3,000
Wi-Fi設置	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	5,000
計	20,000	15,000	20,000	22,000	24,000	101,000

※業務の可視化・標準化・効率化を進め、職員の負担軽減と生産性向上を図るとともに、紙使用量の削減をはじめ運営コストの見直し等によって、別途毎年47万円（R6実績比較）の削減効果を見込む。

# 天王寺動物園 施設整備計画

計画期間(第2期)令和8年度～12年度

## 基本方針

### 1 新獣舎等整備

- 1.1 方針
- 1.2 内容

### 3 機能向上整備

- 3.1 方針
- 3.2 内容

### 2 維持管理

- 2.1 方針
- 2.2 内容

### 4 概算事業費

(参考)

- ・整備位置図(新獣舎等)
- ・工程(イメージ)



# 基本方針

- 本計画は、動物園全体の施設整備について、動物福祉に配慮した展示や来園者サービスの向上、緑化による快適な空間の形成や地球環境への配慮を基本的な方針とし、新しい施設の整備のほか維持管理や機能向上に関する内容を整理したものである。
- 施設整備では、飼育面積や空調不備など動物福祉への配慮が不十分な獣舎や、近年顕著な猛暑に対する来園者サービスの向上等、動物と人の生命や健康に関わる必要性が高い内容に優先的に取り組む。
- 整備にあたっては、既存施設の老朽化の状況や法令・ガイドラインへの適合等を踏まえつつ、全てがスクラップ&ビルドではなく既存ストックを有効活用するなど、整備コストの抑制を図り費用対効果が高くなるよう予算を最大限有益に活用することを目指す。
- 上記により、世界に通用する飼育基準へ適合した獣舎整備で動物福祉の充実を図り、動物の健康維持、繁殖や種の保存に寄与するとともに、動物や環境に関する展示・解説の拡充により教育・環境意識を高め、来園者の行動変容につなげ、さらに快適な園内環境の創出による園内サービスの充実等を通じて、来園者の満足度を高め魅力向上を目指す。

## 基本方針

動物福祉に配慮	<ul style="list-style-type: none"><li>• JAZA※の適正施設ガイドラインや海外基準に準拠した獣舎整備を推進する</li><li>• 動物本来の行動を引き出せる飼育環境を創出する</li></ul>
来園者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"><li>• アメニティ施設の拡充（トイレ整備、猛暑対策等）により快適性・利便性を高める</li><li>• 多様な利用者層に配慮したユニバーサルな環境や、多角的視点からの観覧を実現する</li></ul>
地球環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"><li>• 再生可能エネルギーの導入に向けた検討を実施する</li><li>• 廃棄物の削減とリサイクルの推進等を考慮する</li></ul>
コストの抑制	<ul style="list-style-type: none"><li>• 動物と人の生命や健康に関わる必要性が高い内容に優先的に取り組む</li><li>• 既存ストックを有効活用するなど、費用対効果を高めることを目指す</li></ul>

※JAZA(Japanese Association of Zoos and Aquariums)

• 日本動物園水族館協会。国内の動物園・水族館と維持会員から構成される公益社団法人。希少動物の保護や野生生物の調査・研究等を行う。

# 1 新獣舎等整備

## 1.1 方針

- 基本方針を踏まえ、飼育環境や各施設の老朽化等を考慮しながら各種基準に準拠した獣舎やアメニティ施設等を整備する。

新獣舎等 [概算事業費(百万円)]	完成予定	方針
樹上の森 [2,673]	令和10年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>現獣舎(サルヒヒ舎)の老朽化や不十分な面積・空調・遮熱対策など劣悪な飼育環境であるため、動物の生命・健康維持や動物本来の行動を引き出せる飼育環境を創出する</li> <li>JAZAの適正施設ガイドラインや海外基準に準拠し、動物福祉に配慮した飼育環境を実現する</li> <li>生息域を再現した生態的展示を取り入れるほか、高低差を設けるなど多角的な視点から動物本来の行動を観覧できる環境にする</li> </ul>
休憩エリア (旧ペンギン舎) [80]	令和11年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>南園トイレ同様、来園者増へ対応するため、休憩エリアを増設しより快適な園内環境を提供する</li> <li>園路から容易にアクセスできる環境を提供する</li> </ul>
南園トイレ [177]	令和12年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>新施設のオープンによる来園者数の増加へ対応するため、トイレを増設しより快適な利用環境を提供する</li> <li>既存トイレの数や場所、来園者の利用状況を考慮した場所を選定する</li> </ul>
休憩施設 [7]	第3期 (第2期は設計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>南園トイレ同様、来園者増へ対応するため、休憩エリアを増設しより快適な園内環境を提供する</li> <li>園路から容易にアクセスできる環境を提供する</li> </ul>
動物病院・研究棟等 [114]	第3期 (第2期は設計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>現施設の老朽化や感染症対策の高度化などに対応するため、動物病院や検疫施設等を整備し衛生環境の向上や求められる機能を確保する</li> <li>幅広い分野の調査研究や共同研究の実施、配偶子バンクや冷凍動物園への挑戦等に対応するため、研究棟を増設し調査研究の環境を実現する</li> </ul>
共通事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもや車椅子利用者等多様な来園者が見やすいユニバーサルな環境(観覧スペースや動線等)や快適性に配慮する</li> <li>地球環境に配慮した設備(太陽光発電設備等の再生可能エネルギー、省エネルギー設備等)導入の可否の検討や既存獣舎を撤去する際の3R(リユース、リデュース、リサイクル)に取り組み、再利用可能な資機材は活用する</li> <li>猛暑対策(植樹、ミスト、日除け等)やBCP対策(設備の二重化等)を検討し、導入・実施可能な場合は整備する</li> <li>来園者への工事エリアの見え方(動物園に来たことが感じられる仮囲いのラッピング、完成予想図の貼付等)を配慮する</li> <li>想定されるリスク(動物逸走や動物・来園者・職員のケガ・事故等)をあらかじめ把握し整備内容に反映する</li> <li>安全性や機能を維持しつつコスト縮減を図る</li> </ul>

### 【来園者の声】

トイレ……少ない、足りない、狭い、遠い、ペンギンの方のエリアにトイレが少なかったので困りました、障害者用のユニバーサルトイレ(多目的トイレで成人が横になれるベッドがついたタイプ)の設置を願います  
 樹上の森……暑くて辛そうな姿を見たいとは思いません、少しでも暑さを凌げる対策を、今いる動物への飼育の環境改善をお願いしたい  
 休憩エリア…休憩場所が少ない、無料の休憩場所が充実していれば良い、休憩できるスペースが不十分、お手洗いや休憩スペースがもう少しあれば嬉しかった 等

# 1 新獣舎等整備

## 1.2 内容

- 各施設の整備内容は次のとおり。

新獣舎等 [概算事業費(百万円)]	完成予定	主な内容
樹上の森 [2,673]	令和10年度	<ul style="list-style-type: none"><li>飼育動物種(サル類)に対応したJAZAの適正施設ガイドライン等の基準の空間(広さ、高さ等)を確保した寝室、放飼場を整備</li><li>サル類の行動特性(ブラキエーション※等)が発揮でき、その様子を来園者が上下など多様な視点から観察できる放飼場や観覧スペースを整備</li><li>傷病や高齢のため展示できない動物を適切に飼育できる非公開の寝室、放飼場を整備 等</li></ul> <p>※樹上性の霊長類が、両腕で交互に枝を掴んで身体を振って移動すること。腕渡り。</p>
休憩エリア (旧ペンギン舎) [80]	令和11年度	<ul style="list-style-type: none"><li>テーブル・ベンチの設置を考慮した植栽を配置・整備</li><li>キッチンカー等へ対応できる電源の整備 等</li></ul>
南園トイレ [177]	令和12年度	<ul style="list-style-type: none"><li>子ども用トイレやバリアフリートイレの設置</li><li>手すり、ベビーチェア、節水型トイレ・水栓の設置 等</li></ul>
休憩施設 [7]	第3期 (第2期は設計)	<ul style="list-style-type: none"><li>屋根付き休憩スペース、ウッドベンチ、フォトスポットの設置</li><li>キッチンカー等へ対応できる電源の整備 等</li></ul>
動物病院・研究棟等 [114]	第3期 (第2期は設計)	<ul style="list-style-type: none"><li>動物病院(診察室、解剖室、検査室、実験室、入院室、薬庫・調剤室、シャワー室等)、検疫施設、調理場</li><li>非常用電源や動物、資機材、飼料等の搬出入に対応できる駐車スペースの整備 等</li></ul>

## 2 維持管理

### 2.1 方針

- 新獣舎等整備（新築・改修・解体）や既存施設の実態を考慮しながら、予防保全・事後保全の考え方により維持管理を行う。

対象施設	方針			
既存施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼育動物や利用者（来園者・職員）の生命・財産を守るため、適切な維持管理により安全で快適な利用環境を確保する</li> <li>新獣舎整備（新築・改修・解体）の状況や既存施設（ライフライン含む）の実態を考慮する</li> <li>予防保全・事後保全の考え方により実施する</li> </ul>			
	保全方式	予防保全		事後保全
		時間計画型	状態監視型	
	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>一定期間ごと（耐用年数等）に対応（施設・設備の状態は不問）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>点検等で状態を監視</li> <li>状態に応じて対応（周辺環境等の状況も含む）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>故障・異常・機能低下（前兆含む）等の確認後に対応</li> </ul>
対応	計画改修・更新	計画修繕・緊急修繕	緊急修繕	

### 2.2 内容

- 維持管理で計画改修・更新する時間計画型による予防保全の主な内容として、次のとおり計画する。

保全方式 【概算事業費(百万円)】	年度	主な内容		※実態により変更となる可能性有
予防保全 (事前計画型) [1,896]	[306]	R8	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気柵（カバ舎）</li> <li>暖房・排水設備（肉食獣舎）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自家用発電機（アイファー）</li> <li>自火報設備（南半球館）</li> </ul>
	[443]	R9	<ul style="list-style-type: none"> <li>外壁、屋根、建具（ヒョウ舎等）</li> <li>屋根、非常警報、受水槽等（カバ舎）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱源、水処理、給水設備等（アイファー）</li> <li>外壁、屋根（キッズトイレ等）</li> <li>外壁、空調、消防、受変電設備（夜行性動物舎）</li> <li>ポンプ設備（チンパンジーベース）</li> </ul>
	[387]	R10	<ul style="list-style-type: none"> <li>柱上変圧器（動物病院横）</li> <li>灌水、池循環、排水設備（サバンナ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミスト、消防設備（デッキ下）</li> <li>放送、I T V（新世界ゲート）</li> <li>放送設備（鳥の楽園）</li> <li>外壁、建具（クマ舎）</li> </ul>
	[389]	R11	<ul style="list-style-type: none"> <li>電動扉、電気柵（サバンナ）</li> <li>電動扉（草食獣舎）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>油圧装置、放送設備（サイ舎）</li> <li>外壁、屋根（南半球館横電気室）</li> <li>暖房設備（アジアの森）</li> <li>I T V（てんしばゲート）</li> </ul>
	[371]	R12	<ul style="list-style-type: none"> <li>外壁、屋根（オオカミ舎等）</li> <li>受変電設備（カバ舎）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>警報盤、監視設備（受電室）</li> <li>自家用発電機（南半球館横電気室）</li> <li>消火、放送、受変電設備（アイファー）</li> <li>外壁、屋根、建具（新世界ゲート）</li> </ul>
予防保全 (状態監視型) 事後保全	[978]	<ul style="list-style-type: none"> <li>状態監視型の予防保全、緊急修繕の事後保全は、上記のようにあらかじめ実施する内容を計画するのではなく、各施設の劣化や破損状況などを確認し状態や緊急度に応じて対応する</li> </ul>		

# 3 機能向上整備

## 3.1 方針

- ・ 快適な園内環境を創出し来園者サービスの向上を図るため、既存の獣舎・施設の機能向上を実施する。

対象施設	方針
園路・獣舎前 園内各所	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 近年の猛暑や直射日光など炎天下での観覧が強いられているため、快適に観覧できる環境を提供する</li><li>・ 子どもや高齢者等が遊んだり休憩できるスペースが少ないため、安全に利用できる空間を提供する</li><li>・ 快適な園内環境の整備には、来園者のご意見が大切であるため、利用状況やアンケート等を踏まえた内容にする</li><li>・ 経費節減を図るため、可能な場合は計画改修・修繕等と併せて実施する</li></ul>

### 【来園者の声】

- ・ 日陰の休憩場所がもう少し多いとよい、なにしろ暑すぎた、休憩場を充実させて下さい、夏場に日陰にベンチがあると休憩しながら観覧できて良いなあと思う
- ・ 他の動物園にもある様なエアコン完備の無料休憩の場所が施設内にいくつかあれば嬉しい、冬は吹きさらしの場所しか無料の休憩場所がない
- ・ 雨や暑さのしのげる場所無料休憩所みたいなのが来園者数の数にしたら少なすぎる、暑さ寒さをしのげるイスが少ない、雨の日も困る、寒い日など室内の休憩場所がほしい 等

## 3.2 内容

- ・ 機能向上整備の主な内容として、次のとおり計画する。

対象施設 [概算事業費(百万円)]	完成予定	主な内容
園路・獣舎前 [564]	令和10年度	・ 日よけ(大型テント等) [新世界ゲート(FooZoo・GooZoo付近)]

# 4 概算事業費

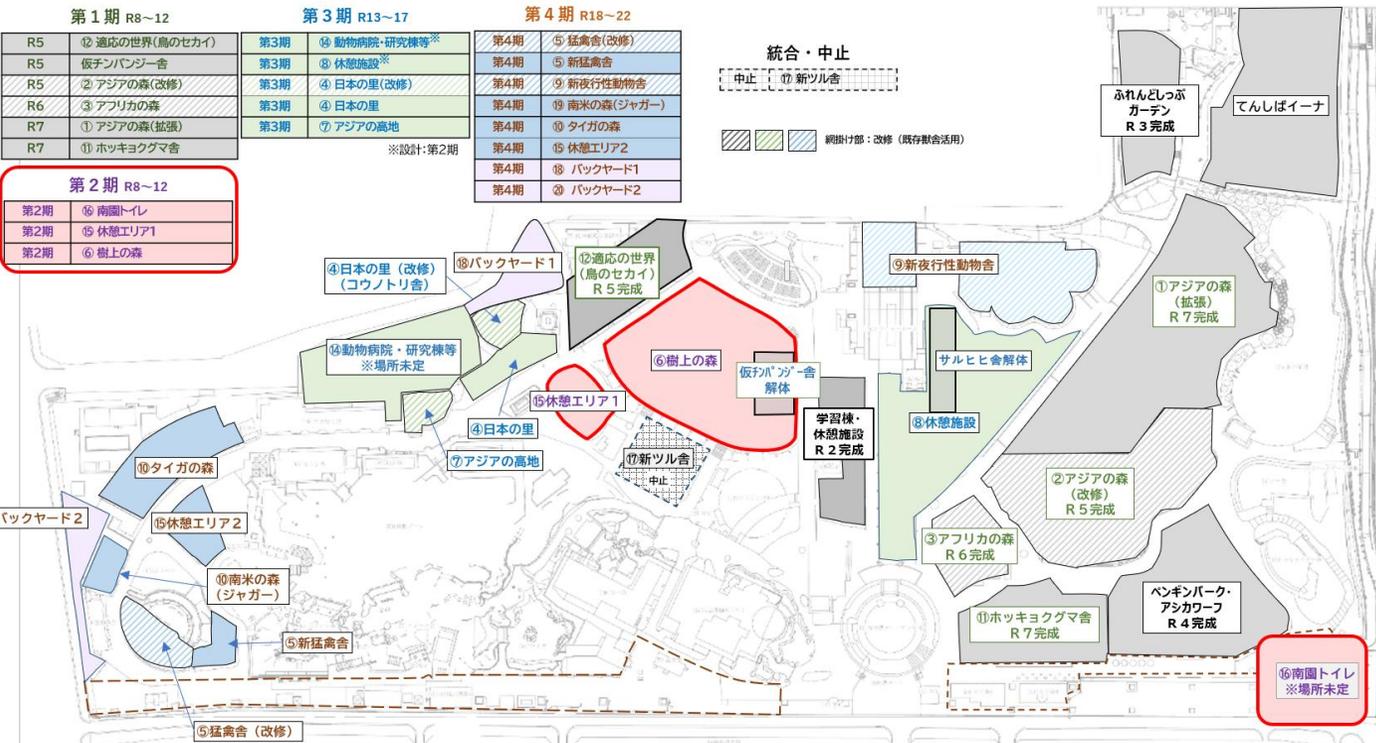
年度	R8	R9	R10	R11	R12	計(百万円)	
新獣舎等整備	樹上の森	設計(修正)14	工事 1,298	工事 1,361		2,673	
	休憩エリア (旧ペンギン舎)	設計(修正)17	解体 33		工事 30	80	
	南園トイレ			設計 7	設計 7	工事 162	177
	休憩施設 (旧サルヒビ舎跡) (旧シカ舎跡)					設計(修正) 7	7
	動物病院・研究棟等					設計 114	114
計(百万円)	31	1,331	1,368	38	283	3,051	
維持管理	予防保全 (時間計画型)	予防保全 306	予防保全 443	予防保全 387	予防保全 389	予防保全 371	1,896
	予防保全 (状態監視型) 事後保全	予防・事後保全 211	予防・事後保全 205	予防・事後保全 187	予防・事後保全 188	予防・事後保全 187	978
	計(百万円)	516	647	574	577	558	2,873
機能向上整備	日よけ (大型テント等) 新世界ゲート (FooZoo・GooZoo付近)		設計 31	工事 533			564
	計(百万円)		31	533			564
合計(百万円)	547	2,009	2,475	615	841	6,488	

※ 四捨五入で計が合わない場合がある

※ 各工種（建築・電気・機械）をまとめた発注を基本とする  
 ※ 物価高騰・不可避要因（地中障害対策等）は 含まない

※ 工期はイメージであり変更することがある  
 ※ 機能向上整備は、来園者のご意見や利用状況等を踏まえた内容とするため、設計・工事の件数、工期等を変更することがある

・整備位置図(新獣舎等)



第1期 R8~12	第3期 R13~17	第4期 R18~22
R5 ⑫ 適応の世界(鳥のセカイ)	第3期 ⑭ 動物病院・研究棟等※	第4期 ⑮ 猛禽舎(改修)
R5 仮パンパンジー舎	第3期 ⑯ 休憩施設	第4期 ⑯ 新猛禽舎
R5 ② アジアの森(改修)	第3期 ④ 日本の里(改修)	第4期 ⑨ 新夜行性動物舎
R6 ③ アフリカの森	第3期 ④ 日本の里	第4期 ⑩ 南米の森(ジャガー)
R7 ① アジアの森(拡張)	第3期 ⑦ アジアの高地	第4期 ⑩ タイガの森
R7 ⑪ ホッキョクグマ舎	※設計:第2期	第4期 ⑮ 休憩エリア2
		第4期 ⑯ バックヤード1
		第4期 ⑳ バックヤード2

第2期 R8~12
第2期 ⑭ 南園トイレ
第2期 ⑮ 休憩エリア1
第2期 ⑥ 樹上の森

工程 (イメージ)		第1期	第2期中期経営計画期間					第3期	第4期	
ゾーン	飼育動物	~R2	R3~7	R8	R9	R10	R11	R12	R13~17	R18~22
ふれんどじぶガーデン	ヒツジ・ヤギ	←→								
ペンギンパーク&アシカワーフ		←→								
①② アジアの森	ソウ	←→								
③ アフリカの森	チンパンジー	←→								
④ 日本の里	ニホンシガメ	←→ (一部設計まで)							←→	
⑤ 新猛禽舎	ニホンイタドリ	←→ (一部設計まで)								←→
⑥ 樹上の森	フクロナガザル	(一部設計まで) ←→								
⑦ アジアの高地	レッサーパンダ	←→ (計画まで)							←→	
⑧ 休憩施設		←→ (一部設計まで)							←→	
⑨ 夜行性動物舎	コウモリ	←→ (計画まで)								←→
⑩ タイガの森	アムールトラ	←→ (計画まで)								←→
⑪ ホッキョクグマ舎		←→								←→
⑫ 鳥のセカイ	キジ	←→								
⑭ 動物病院・研究棟等									←→	
⑮ 休憩エリア1、2		(一部設計まで) ←→								←→
⑯ 南園トイレ										←→
⑰ バックヤード1										←→
⑱ 南米の森	ジャガー									←→
⑳ バックヤード2										←→

※工期はイメージであり変更することがあります。

・整備位置図(新獣舎等)

第1期 R8~12

R5	⑫ 適応の世界(鳥のセカイ)
R5	仮チンパンジー舎
R5	② アジアの森(改修)
R6	③ アフリカの森
R7	① アジアの森(拡張)
R7	⑪ ホッキョクグマ舎

第3期 R13~17

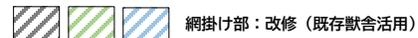
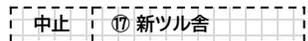
第3期	⑭ 動物病院・研究棟等※
第3期	⑧ 休憩施設※
第3期	④ 日本の里(改修)
第3期	④ 日本の里
第3期	⑦ アジアの高地

※設計:第2期

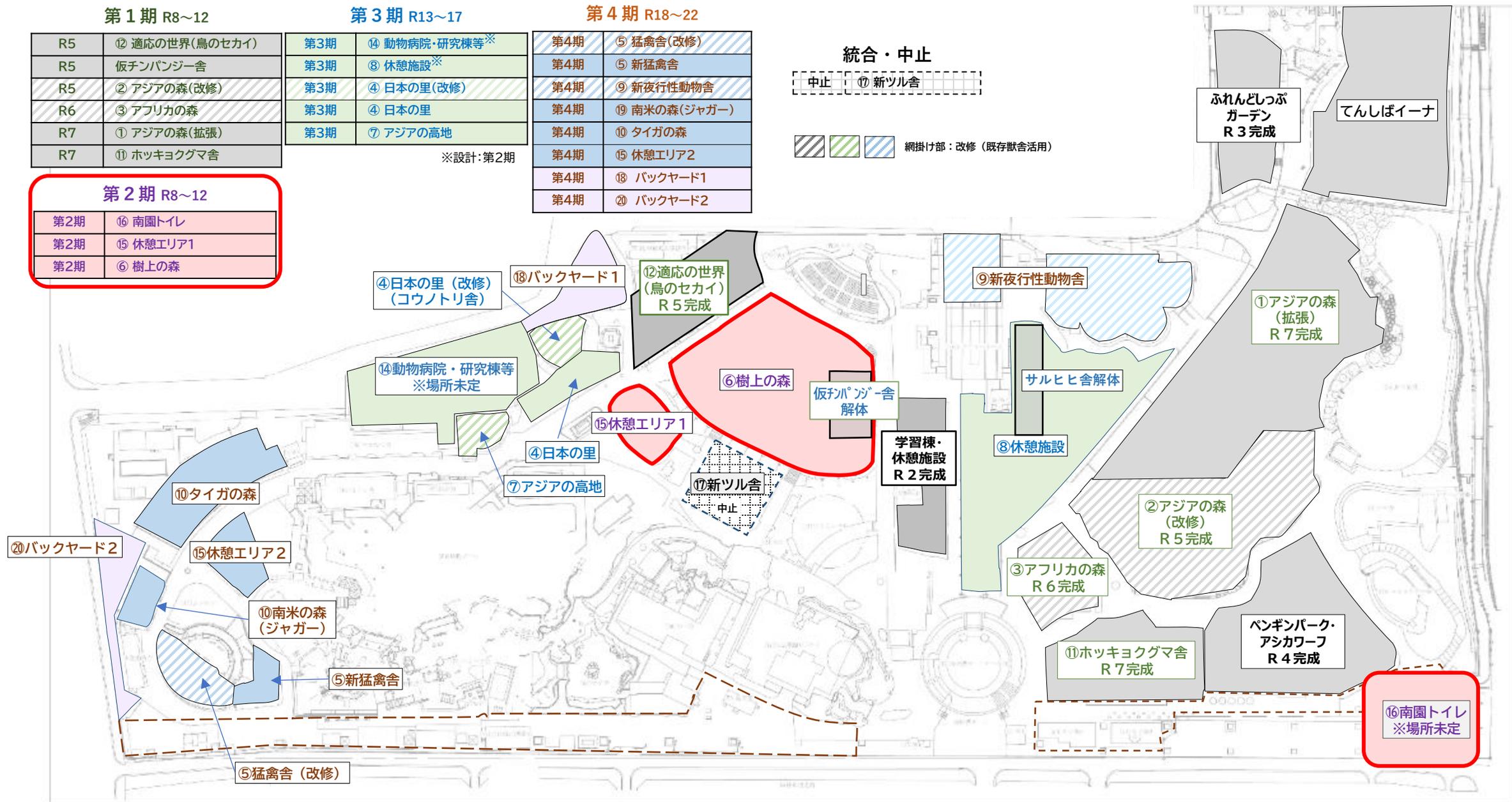
第4期 R18~22

第4期	⑤ 猛禽舎(改修)
第4期	⑤ 新猛禽舎
第4期	⑨ 新夜行性動物舎
第4期	⑩ 南米の森(ジャガー)
第4期	⑩ タイガの森
第4期	⑮ 休憩エリア2
第4期	⑱ バックヤード1
第4期	⑳ バックヤード2

統合・中止



第2期	⑯ 南園トイレ
第2期	⑮ 休憩エリア1
第2期	⑥ 樹上の森



# (参考)

## ・工程(イメージ)

工程 (イメージ)			第1期	第2期中期経営計画期間						第3期	第4期
	ゾーン	飼育動物	～R2	R3～7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R13～17	R18～22
	ふれんどしゅぶガーデン	ヒツジ・ヤギ		↔							
	ペンギンパーク&アシカワーフ			↔							
①②	アジアの森	ゾウ		↔							
③	アフリカの森	チンパンジー		↔							
④	日本の里	ニホンイシガメ		↔ (一部設計まで)						↔	
⑤	新猛禽舎	ニホンイヌワシ		↔ (一部設計まで)							↔
⑥	樹上の森	フクロテナガザル	(一部設計まで)	↔	↔						
⑦	アジアの高地	レッサーパンダ		↔ (計画まで)						↔	
⑧	休憩施設			↔ (一部設計まで)					↔		
⑨	夜行性動物舎	コウモリ		↔ (計画まで)							↔
⑩	タイガの森	アムールトラ		↔ (計画まで)							↔
⑪	ホッキョクグマ舎			↔							
⑫	鳥のセカイ	キジ		↔							
⑭	動物病院・研究棟等									↔	
⑮	休憩エリア 1、2		(一部設計まで)	↔	↔ 休憩エリア 1						↔ 休憩エリア 2
⑯	南園トイレ								↔		
⑰	バックヤード 1									↔	
⑱	南米の森	ジャガー								↔	
⑳	バックヤード 2									↔	

凡 例

↔ 実工期

↔ 第3期以降予定工期

※工期はイメージで変更することがあります